

修士論文（要旨）

2013年1月

キャリア教育プログラム受講中の大学生における
キャリア・アダプタビリティの変化について

指導 種市 康太郎 先生

心理学研究科
臨床心理学専攻
211J4011
壬生 玲

目次

第1章. 問題の背景と所在	1
1. 大学生の就職活動における状況	1
2. キャリア・アダプタビリティ (Career Adaptability)	1
2-1. キャリアの捉え方について	1
2-2. キャリア・アダプタビリティの概念	2
2-3. キャリア・アダプタビリティに関する先行研究	3
3. キャリア教育プログラム	5
3-1. 大学機関における、学校から社会へ移行期の学生に対する支援	5
3-2. キャリア教育プログラムに関する先行研究	6
3-3. キャリア教育プログラムの課題	7
第2章. 目的	8
第3章. 方法	9
1. 対象者	9
2. 尺度	9
3. キャリア教育プログラム	10
2. データの分析	12
第4章. 分析	13
分析1	13
1-1. 目的	13
1-2. 仮説	13
1-3. 方法	13
1-4. 結果	13
1-5. 分析1のまとめ	27
分析2	28
2-1. 目的	28
2-2. 仮説	28
2-3. 方法	28
2-4. 結果	28
2-5. 分析2のまとめ	41
3. 分析3	41
分析3-1	42
3-1-1. 目的	42
3-1-2. 仮説	42
3-1-3. 方法	42
3-1-4. 結果	42
3-1-5. 分析3-1のまとめ	55
分析3-2	56
3-2-1. 目的	56

3-2-2. 仮説	56
3-2-3. 方法	56
3-2-4. 結果	57
3-2-5. 分析3-2のまとめ	106
第5章. 考察	108
1. 分析1について	108
2. 分析2について	109
3. 分析3について	110
4. 総合考察	113

引用文献

I. 問題と目的

厳しい社会情勢は、先行きの見えない中で就職活動を行う大学生のキャリア形成の考え方に、大きな影響を与えていると考えられる。わが国よりも早く長期雇用慣行の崩壊が始まったアメリカ社会において、近年、注目されてきている概念がキャリア・アダプタビリティである（黒川,2009）。Savickas（2002）は、「キャリア・アダプタビリティとは現在のそして将来予想される職業発達課題に対する個人のレディネスおよび対処能力を示す心理社会的構成概念である」と定義している。

キャリア・アダプタビリティを高める支援として、キャリア教育プログラムが考えられる。キャリア教育プログラムが、学校から社会への移行期における学生に対し、有益であるとする研究は多い。しかし、キャリア教育プログラムは、教育機関によりさまざまである。また、キャリア教育の効果や評価について体系的に分析・検討した研究は、多いとは言えない（独立行政法人労働政策研究・研修機構,2010）。

以上のことから、本研究は、キャリア教育プログラムと、キャリア・アダプタビリティの関連について検討する。併せて、個人の属性（性別）や意識（何をきっかけに変化したと考えているか、等）との関連についても検討する。キャリア教育プログラムと、キャリア・アダプタビリティとの関連を明らかにすること、および、それらに対する個人の属性や意識との関連を検討することは、今後、有用なキャリア形成支援を行うために、意義があると考えられる。

II. 方法

都内私立大学の学部3年生の、キャリア教育プログラム講義履修者を対象とした調査を行った。調査データ提供に当たっては、A 大学キャリア支援室およびキャリア開発事業を担当している株式会社リアセック社に調査の協力を依頼し、研究実施の許可を得た。キャリア・アダプタビリティ尺度は、(Taneichi, Matsumura, Tanabe & Watanabe-Muraoka, 2011)を使用した。

III. 結果

本研究では、3つの分析を行った。分析1では、キャリア教育プログラムを受講した学生を対象に、性別とプログラムの受講形態によるキャリア・アダプタビリティの違いについて検討した。その結果、キャリア教育プログラムの受講形態、すなわち、春学期、秋学期ともに受講している受講形態A群、秋学期のみ受講している学生をB群において、A群はB群より、キャリア・アダプタビリティが高いとはいえず、性別により差が生じることが示された。

分析2では、春学期、秋学期通してキャリア教育プログラムを受講した学生を対象に、性別とプログラムの受講時期によるキャリア・アダプタビリティの違いについて検討した。その結果、キャリア教育プログラムを、春学期、秋学期、通して受講している学生において、秋学期は、春学期よりキャリア・アダプタビリティが高く、性別による差は認められないことが示された。

分析3では、まず分析3-1として、性別と、プログラムの受講前後における変化に関する意識による、キャリア・アダプタビリティの違いについて検討した。その結果、学生自身の変化の有無に関する意識において、変化あり①群（キャリア教育プログラムによって

変化した学生群) および、変化あり②群 (プログラム以外の事柄により、変化した学生群) は、変化なし群よりキャリア・アダプタビリティが高く、変化あり①群と変化あり②群には、差が認められないことが確認された。また、変化に関する意識においては、限定的に、性別による差が生じることが示された。そして、分析3-2として、プログラム受講前後で変化があったと回答した学生のみを対象に、変化の契機、すなわち「何をきっかけに変化したか」および、変化の内容、すなわち「どのように変化したか」を確認し、変化の契機および変化の内容と、受講の時期による、キャリア・アダプタビリティの違いについて検討した。その結果、変化の契機によるキャリア・アダプタビリティの差は認められず、変化の内容においては、限定的に差が認められた。すなわち、就職活動に対する意識付けがされた学生は、他者とのコミュニケーションが円滑となった学生より、キャリア・アダプタビリティが高い傾向があることが示された。

IV. 考察

本研究の目的は、キャリア・アダプタビリティと、キャリア教育プログラム、および、個人の属性や意識について検討し、関連を明らかにすることであった。そして、分析の結果、上述のような結果が得られた。これらの結果が示す傾向を得られたことは、今後の、キャリア形成支援を検討するうえで、有意義な実践的研究であると考えられる。

引用文献

- 安達 智子 (2001). 大学生の職業興味と自己効力感、結果期待の関連性 日本教育心理学会総会発表論文集, **43**, 570.
- 安達智子 (2003). 大学生の職業興味形成プロセス : 手段性・表出性,自己効力感,結果期待の役割について 教育心理学研究, **51**, 308-318.
- 安達智子(2004). 大学生のキャリア選択 その心理的背景と支援 日本労働研究雑誌 **46**, 27-37.
- 赤堀勝彦 (2006). キャリアデザインについて キャリア形成を中心に 長崎県立大学論集, **40**, 157-203.
- 独立行政法人労働政策研究・研修機構 (2009). 「相談機関におけるキャリア支援プログラムの実態調査 キャリア選択支援ツール開発のために」
- 独立行政法人労働政策研究・研修機構 (2010). 「学校時代のキャリア教育と若者の職業生活」
- 独立行政法人労働政策研究・研修機構 (2012). 「入職初期のキャリア形成と世代間コミュニケーションに関する調査」
- Hall, D. T. (2002). *Careers in Organizations*. Santa Monica, California : Goodyear.
- 廣瀬英子(1998). 進路に関する自己効力研究の発展と課題 教育心理学研究, **46**, 343-355.
- 堀越 弘 (2005). 中年期におけるキャリア環境変化対応性への影響要因 生涯キャリア発達の視点に立って 産業・組織心理学研究, **18**, 77-87.
- 堀越弘・渡辺三枝子 (2006). 成人前期におけるキャリア環境変化対応性への影響 生涯キャリア発達の視点に立って 経営行動科学, **19**, 163-174.
- 藤井 義久 (1999). 女子学生における就職不安に関する研究 心理学研究, **70**(5), 417-420, 1999-12
- 古田 克利(2010). インターンシップ経験が新入社員のキャリア適応力に及ぼす影響 (日本インターンシップ学会) 年報, **13**, 1-7.
- 古田 克利 (2012). IT 技術者のキャリア・アダプタビリティの特徴 : 他職種との比較および職場ストレスとの関連に着目して (関西外国語大学) 研究論集, **95**, 101-117.
- 角方正幸・松村直樹・平田史昭 (2010). 就業力育成論 実践から学ぶキャリア開発支援対策 学事出版
- 金井壽宏・高橋俊介 (2005). キャリアの常識の嘘 朝日新聞社
- 神田道子(2000). 女子学生の職業意識 勁草書房
- 川瀬隆千・辻 利則・竹野 茂・田中宏明 (2006). 本学キャリア教育プログラムが学生の自己効力感に及ぼす効果 宮崎公立大学人文学部紀要, **13**, 57-74.
- Koutaro Taneichi;Naoki Matsumura;Akihiro Tanabe;Agmes M.Watanabe-Muraoka (2011) The interim report on developing the Japanese Version of the Career Adaptability Scale for Japanese University Students (International Conference "Vocational Designing and Career Counseling")
- 厚生労働省 (2011). 「平成 23 年度 大学等卒業予定者の就職内定状況調査」

- 黒川雅之 (2009). キャリア適応力と職業・個人的スキルとの関係 カウンセリング研究, **42**, 134-144.
- 松井賢二 (2008). 大学におけるキャリア教育プログラムの実践とその効果 新潟大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 教育実践総合研究, **7**, 123-140.
- 益田 勉 (2008). キャリア・アダプタビリティと組織内キャリア発達 人間科学研究, **30**, 67-78.
- 益田 勉 (2010). キャリア・アダプタビリティと転職の意志 生活科学研究, **32**, 13-25.
- 益田 勉 (2011). キャリアの効果性の4種類の検討 (2). 人間科学研究, **32**, 31-40.
- 文部科学省 (2004). 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」.
- 内閣府 (2011). 「平成23年度版 子ども・若者白書」
- 中森孝文・石田 徹・只友景士・土山希美枝・阿部大輔 (2012). 龍谷大学政策学部における低年次生向けキャリア養成プログラム試行の効果と課題 龍谷政策学論集, **1**, 83-95.
- 岡田龍樹 (2009). 大学生のキャリア意識の育成 授業「キャリア・デザイン」の効果分析 天理大学生涯教育研究, **13**, 13-20.
- 坂爪洋美 (2008). キャリア・オリエンテーション 個人の働き方に影響を与える要因 白桃書房.
- 坂柳恒夫 (1996). 大学生のキャリア成熟に関する研究: キャリア・レディネス尺度(CRS)の信頼性と妥当性の検討 愛知教育大学教科教育センター研究報告, **20**, 9-18.
- Savickas, M. L. (2002). Career construction: A developmental theory of vocational behavior. In D. Brown and associates, *Career Choice and Development (4th ed.)* pp. 149-205 San Francisco: Jossey Bass.
- Savickas, M. L. (2005). The theory and practice of career construction: In S. D. Brown & R. W. Lent (Eds.), *Career development and counseling: Putting theory and research to work*, Hoboken, NJ: John Wiley & Sons. pp.42-70.
- Super, D. E. (1957). *The Psychology of Careers*. Harper & Brothers.
(スーパー, D.E. 日本職業指導学会 (訳) (1960) 職業生活の心理学 誠信書房)
- 高木亮・淵上克義・田中宏二 (2008). 教師の職務葛藤とキャリア適応力が教師のストレス反応に与える影響の検討 年代ごとの影響の比較を中心に 教育心理, **56**, 230-242.
- 田中徳一・成行義文・平井松午 (2012). 自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」とそれに基づく初年次キャリア教育の実践 大学教育研究ジャーナル, **9**, 141-151.
- 田積 徹・白石達郎・益池昭宏・中野深幸・今西 肇・有山篤利・富 章 (2010). 進路選択自己効力とキャリア教育およびキャリア支援プログラムの有用性との関連 聖泉論叢, **18**, 77-92.
- 内田智大 (2007). 就職活動の実態とその成功の規定要因: 本学国際言語学部の事例 (関西外国語大学) 研究論集, **85**, 99-116.
- 浦上昌則 (1996a). 女子短大生の職業選択過程についての研究: 進路選択に対する自己効力, 就職活動, 自己概念の関連から教育心理学研究, **44**(2), 195-203, 1996-06-30
- 浦上昌則 (1996b). 就職活動を通しての自己成長: 女子短大生の場合 教育心理学研究, **44**, 400-409.

- 渡辺三枝子・黒川雅之（2002）. キャリア・アダプタビリティの測定尺度の開発 筑波大学心理学研究, **24**, 185-197.
- 大和里美（2010）. キャリア教育における参加型授業の有効性に関する検討：テキストマッピングによる効果分析 太成学院大学紀要, **12**, 139-149.
- 吉谷二郎（1990）. 生涯に亘るキャリア形成と職業指導 労働問題研究会